



Rainbow letter

2025.4

No. 44

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

受賞報告

鈴木利人前理事長、内閣府特命担当大臣功労者表彰を受賞

令和5年度に日本家族計画協会会長賞を賜り、この度令和6年度健やか親子21全国大会（鹿児島）において、内閣府特命担当大臣表彰を受賞しましたことを大変光栄に思っております。周産期メンタルヘルス活動に対する表彰ですが、精神科医としての受賞に多少の戸惑いも感じています。私はおよそ20年前より基礎研究として妊娠中の母ラットにコカインや向精神薬を投与し、新生仔の脳機能や行動の異常を研究してきました。臨床面では国立成育医療研究センター「妊娠と薬情報センター」で当時村島温子室長が主催した身体疾患合併妊娠に対応する全国拠点病院作り企画に参画し、本格的に周産期メンタルヘルスに携わるようになりました。

その後、本学会理事長の岡野禎治先生から薫陶を賜り、微力ながら二代目理事長を務めさせていただきました。2020年に日本精神神経学会と日本産科婦人科学会協働の周産期メンタルヘルスガイドの作成委員会委員長を拝命し総論と各論を作成しました。2010年代は、「向精神薬と妊娠・授乳」に関する啓発活動を行ってきましたが、最近では周産期メンタルヘルス外来や日本産婦人科医会の妊産婦死亡に関する評価委員などの経験を通して「産後うつ病の自殺予防」について講演活動などを行っています。同時に全国各地で周産期メンタルヘルスを担う次世代、次々世代の精神科医が育っていることを実感し心強く思っています。

会員の皆様におかれましては、益々のご活躍を願うとともに学術集会でこれからもお会いできますことを楽しみにしております。最後に、ここまでご指導を賜りました本学会名誉理事岡野禎治先生に改めて深謝申し上げます。（前理事長/鈴木利人/順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院院長）

学術集会参加報告

第37回日本総合病院精神医学会総会 周産期メンタルヘルス委員会企画・ パネルディスカッション



去る2024年11月29日～30日、熊本市にて第37回日本総合病院精神医学会総会が開催されました。同学会の周産期メンタルヘルス委員会では、根本清貴（筑波大）・永井美緒（松山赤十字病院）両先生座長のもと、「周産期リエゾンにおける臨床実践」と題したパネルディスカッションが企画されました。

ディスカッションに先立ち、飯田仁志先生（福岡大）からは周産期の薬物療法について、胎児への影響に関するエビデンスやプレコンセプションケアにおける注意点を、根本清貴先生からは、今までメンタルヘルスの観点からは軽視されがちであった胎児アルコールスペクトラム障害についてご紹介いただきました。続いて菊地紗耶先生（東北大）からは向精神薬の授乳への影響について、各種ガイドラインを引用しての概説、同院での授乳プランシートの導入ならびにその結果についてもご紹介いただきました。そして渡邊博幸先生（木村病院）から周産期に利用できる社会資源の概説に加えて連携をとるべき中心となるカウンターパートについてご解説いただき、それに続ける形で野田麻理先生（安城厚生病院）より周産期における心理職の働きや産科医療機関での活動についてご紹介いただきました。ディスカッションではディスカッサントの先生方（安田貴昭先生、福本健太郎先生、宮田郁先生、岡島美朗先生）も加わり、朝一番のプログラムにも関わらず活発な議論が交わされました。

ほかにも周産期関連では、シンポジウム1つ、パネルディスカッション1つ、ワークショップ2つが催され、いずれのプログラムも熱心な参加者が見受けられました。他領域・他職種への展開も活発に行われており、リエゾン精神医学における周産期領域への関心の高さを印象付ける会であったと感じさせられました。

（評議員/須田哲史/国家公務員共済組合連合会立川病院精神神経科）

第21回 日本周産期メンタルヘルス学会学術集会

大会長 春名めぐみ

（東京大学大学院医学系研究科母性看護学・助産学分野）

2025.9.26(金)-27(土) 一橋講堂(東京) 現地/オンデマンド

<https://procomu.jp/pmh2025/>

演題締め切りは **5月31日(土)** です！



「生きる力を
次世代につなぐ
周産期メンタルヘルス」

企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。